

学習内容報告書 フォーマット

学校名	唐津市立佐志小学校
授業者	山田靖子、山下浩一郎

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「知ろう！学ぼう！体験しよう！～佐志っ子 私たちの海」

1-2. 学年

5年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

これまでの生活科、社会科、総合的な学習の時間などの学習や、地域の中での生活経験から、身近に感じている海について、まだよく知らないことが多いことに気づいた児童は、疑問や知りたいことをまとめ、海の専門家を招いて話を聞くことを通して、ある程度の疑問が解決し、知見を広げることができた。その一方で、地引網、シュノーケリングなど海に親しむ体験や、稚魚放流、漂着ゴミ調べなどを体験しながら、海の環境と漁業の関係についてさらに興味・関心を持ち、もっと調べてみたいと意欲をもった。

そこで、これまでの調べ学習で分類・整理したことの中から、他者へ伝えたいことを選択し、だれに、どうやって伝えるかを決め、自身の研究の課題を明確にした。その過程で、県水産振興センターの方や地元漁業関係者を講師に招いてたずねたり、本やインターネットで調べたり、同じ課題の児童同士で話し合ったりしながら、考えを深めていった。そして、研究の成果を伝えたい相手に伝えたい手段を用いてまとめ、発表する「研究発表会」を、本単元の学習のゴールとした。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

海と深く関わってきた佐志校区の、地域素材・人材を積極的に活用して、総合的な学習の時間と国語科学習を関連付けたカリキュラム・マネジメントと授業実践を行えば、児童が、自分自身の生活する身近な地域のもの・こと・人とのつながりを通して、社会と主体的に関わり、創造していかうとする基盤を育てるとともに、地域を誇りに思い、大切にしようとする意識を高めることができるであろう。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- (1) 身近な海の環境や漁業の中から、調べたい事柄を見つけたり、追究したい課題を設定したりする力。【知識・技能】
- (2) 調べ学習を通して得た情報から、身近な海の環境を生かしたり改善したりしながら漁業に関わる人々の生き方などに魅力を感じたり、それを他者へ伝える方法を考えたりする力。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 身近な海の環境や漁業に関心を持ち、進んで学習に取り組み積極的に発信しようとする力。【向かう力】

1-7. 単元の展開（全60時間）

時数	学習活動・主な内容	※ 教師の指導 / 主な評価 ☆ 外部連携 / 使用教材等
3	単元の学習計画を立てよう。	※これまでの学習や体験をふり振り返りながら、佐志の海について、実はよく分かっていないことがたくさんあることに気づかせる。 ※疑問や知りたいことを出し合い、単元の学習計画を考えさせる。また、海の専門家に教えていただきたいことを分類・整理させる。
2	海の専門家から学ぼう。 ・海の学習会 part 1 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>＜講話の内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イワシ漁から育てる漁業（栽培漁業）への転換 ・カキとワカメの養殖 ・カキの海水浄化作用の実験 ・魚の育つ環境づくり（海を耕す、魚礁設置、七山の植樹、海岸清掃） ・講師への質問 </div>	☆県立海水産振興センター 増田さん、唐房漁協青年部 坂本春也さん、吉田善史さん、他。 ※獲れる魚、漁法、漁師の仕事、海の環境などの話を聞いて、伝えておいた「知りたいことや疑問」が明らかになったこと、新しく知ったこと、もっと調べたいことに分けてまとめさせる。 ※カキが汚れた水をきれいにする実験を通して、佐志の海はきれいであること、しかし、魚が育つにはきれいすぎることを押さえて、魚が育つゆたかな海について調べたい意欲を高める。
13	海のことをもっと知ろう。 ・地引網体験・海岸清掃（幸多里浜） ・稚魚放流（佐志浜岸壁／ヒラメ、カサゴ） ・シュノーケリング体験（県波戸岬少年自然の家）	☆唐房漁協青年部、県水産振興センター（地引網） ※地引網の前に海岸清掃を行う。海岸のゴミは持ち帰り、分別して気づきをまとめさせる。 ☆県水産振興センター指導員 増田さん、J F 佐賀玄海職員、市水産課（稚魚放流） ※稚魚放流の時期は、唐津湾の海底を耕す時期でもあることを知り、魚の育つ栄養分を海中にまき散らすためであることに気づかせる。 ☆波戸岬少年自然の家指導員（シュノーケリング） ※磯浜や海に生息する生物を観察させる。
6	研究したいことと学習のゴールを決めよう。 ・もっと知りたいことを調べる。 ・自分の研究課題を決める。 ・だれに、どうやって伝えるか考える。	※これまでの学習や海を楽しむ体験から、もっと知りたいと思ったことを調べる学習を仕組む。 ※「海の環境」「育てる漁業（養殖・栽培漁業）」「漁師の仕事」の3つの中から、他者へ伝えたいことながらを選択させ、自分が感じた魅力等を、選択の根拠として記述させる。 ※伝えたいことながらを伝えたい相手と、その相手に対して相応しい伝え方を、これまでの学習等を想起させながら考えさせる。

16	<p>どんどん研究しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PW、GWを柔軟に行う。 <p>・海の学習会 part 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめに向けた調べ直しを行う。 	<p>※研究課題の近い児童でグループを作り、グループ発表を行うが、各自の研究課題を大事にしてよいことを確認する。</p> <p>※分かったことや疑問、さらに調べたいことを整理しながら、PW、GWを進めさせる。</p> <p>※仮説を検証するための研究になっているか確認しながら学習を進めさせる。</p> <p>※調べ方、調べる計画をはっきりさせる。これまでに学んだ調べ方として、図書、インターネット、インタビュー、手紙等の手法があることを確認する。</p> <p>☆県玄海水産振興センター 増田さん、唐房漁協青年部 坂本春也さん、吉田善史さん、他。</p> <p>※事前に質問したいことを整理させておく。また、主な質問内容を講師へも伝えておく。</p> <p>※海の学習会 part 2 で新たに分かったことをもとに、付け加えたり、修正したりさせる。</p> <p>※発表に向けた提示資料として、図、表、グラフ、写真などを準備させる。</p>
6	<p>研究の成果をまとめよう。</p>	<p>※グループごとに発表の方法を選ばせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを使って伝える。 ・新聞やポスターにまとめて伝える。 <p>※調べたことや準備した資料の中から、必要なものを選び、順番を考えて整理させる。</p>
7	<p>研究の成果を発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年児童相互の研究発表会 ・4年生への研究発表会 	<p>※仮説を検証する形になっているか、提案はできているか、4年生に伝える発表として相応しいか、発表の仕方はどうか、について相互に発表を聞き合うことで、改善を図らせる。</p>
5	<p>感謝の会を開こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい相手を招いて「意見発表会」を行う。 	<p>☆県玄海水産振興センター 増田さん、唐房漁協青年部 坂本春也さん、吉田善史さん、校長先生、他</p> <p>※コロナ対応により、発表を動画撮影して、伝えたい方々に送って見ていただく形に変更した。</p>
2	<p>学習のふり返りをしよう。</p>	<p>※これまでの学習の画像や学習成果物を見せたり、関わった方々の感想文や手紙等を紹介したりすることで、学んだことや学び方をふり返りながら、学びの意味づけ価値づけを行う。</p>

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 60 時間中の 24 時間目

※例：単元10時間中の2時間目 / 単元15時間中の4,5時間目

2-2. 本時の目標

これまでの調べ活動で得た情報の中から他者へ発信したい情報を選択し、相手に応じた伝え方を考えることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	形態	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 これまでの調べ学習で分かったことや自分の考えを振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*国語科での学びから、 「疑問」⇒「仮説」⇒「調査・探究」 ⇒「分かったことと課題」⇒「提案」 の形でまとめることとした。</p> </div>	<p>CW</p>	<p>○ 調べ活動の様子を視覚資料で提示したり、児童のふり返りを引用したりすることで、学習して分かったことだけでなく、感じたことや考えたこと等も想起できるようにする。</p> <p>○ 国語科「グラフや表を用いて書こう」「提案しよう 言葉とわたしたち」などの学習と関連付けながら、佐志の海について学んだことを他者へ伝えたいという意欲をもたせる。</p>
<p>めあて 調べて分かったことや考えたことを「だれに・どうやって」伝えるか 考えよう。</p>		
<p>3 これまでの調べ学習で分類・整理したことから、他者へ伝えたいことがらを選択する。</p>	<p>PW</p>	<p>○ 「海の環境」「育てる漁業（養殖・栽培漁業）」「漁師の仕事」の3つの中から、他者へ伝えたいことがらを選択させ、自分が感じた魅力等を、選択の根拠として記述させる。</p> <p>ことがらの選択については、前時の学習をもとに、事前に簡易的な調査を実施して意識づけを図る。</p>
<p>4 同じことがらを選択した友達とグループを組み、誰にどのような方法で伝えるかを考える。</p>	<p>GW</p>	<p>○ ことがらを伝えたい相手に対して相応しい伝え方を、これまでの学習や取組を想起させながら考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを使って伝える。 ・新聞やポスターにまとめて伝える。 <p>○ だれに伝えたいかを考え、発表の仕方や方法について考えることができるようにする。</p>
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>B 調べたことがらを伝えたい相手を考え、相手に応じた表現方法を記述している。(ワークシート)</p> <p>● 伝えたい相手にどのような場で伝えることができるか、考えるよう促す。</p> </div>		

5 本時の学習を振り返る。	PW	<p>○ 「ふり返りのポイント」を提示し、本時のふり返りを記述させる。</p> <div data-bbox="751 259 1457 465" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><ふり返りのポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習で考えることができたこと。 ・友達のよかったところ、なるほどと思った考え。 ・次の時間に取り組みたいこと。 </div>
6 次時への見通しを持つ。	CW	○ 数名の児童にふり返りを紹介させ、本時の学習の価値づけを行い、次時の活動への意欲を喚起させる。

3. 今回の活動の自己評価

<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度単元化した学習内容の課題の改善を考えながら、かつ、コロナ対応による修正を図りながら、授業実践を進めてきた。そのような厳しい状況下ではあったが、校区内の幸多里浜での「地引網体験」、学校前の佐志浜岸壁での「ワカメ養殖体験」、県水産振興センター職員による「カキの海水浄化力の実験」など、新たな地域の教育資源を発掘することもできた。 ・学習の中で、「課題の設定」⇒「情報の収集」⇒「整理・分析」⇒「まとめ・表現」という探究的な学習の過程を繰り返しながら学びを深めていくことができた。 ・漂着ごみの分類やさらに詳しく知るための調査活動など、児童の主体的に学ぼうとする姿が見られた。 ・これまで表面的にしか見ていなかった海や水産業に対する児童の理解が深まり、海や海に関わる人や仕事に対する親しみなどプラスのイメージが高まった。 ・実施に際し協力していただく地域の方々を招いて、年度末(R2.2.26)に海洋教育関係者会議を開いた。そこでの話し合いをもとに、今年度の単元を見通した学習計画を具体的に立案することができたし、地域の方々も見通しを持って準備をしていただけたことが効果的だったので、来年度に向けても同じ手立てをとっていきたい。

4. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、コロナ対応により、4～5月、2～3月とそれぞれ1か月余り通常の学習活動ができなかったことで、春の遠足と関連付けた導入ができないなど、カリキュラムの変更が迫られた。また、三密を避けることの徹底などにより、校区内にある県水産振興センターの見学や漁業関係者への聞き取り活動、近隣の小学校と交流し合う「交流発表会」など、人とふれ合う学習活動が十分にできなかった。来年度も同じような状況が続くと想定した上で、年間計画を考えていきたい。 ・来年度から始まるGIGAスクールの取組により、2学期からは児童一人一台のタブレットが与えられる。こうした環境を生かした実践も検討していきたい。 ・地引網体験や養殖体験など、ライフジャケットが1学級分しかないために、借用したり、交代してきたりしなければならないが、コロナ対応を考えての活動をとれば、一人一着で活動後は消毒が原則である。もう1学級分(25着)の児童用ライフジャケットを揃えることが必要である。
--

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
